HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	趣旨説明
Author(s)	中野, 悦子
Citation	第6回 人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書Ⅰ 講演の記録, 13-14
Issue Date	2021-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/83479
Type	conference presentation
File Information	JF6_hokudai_1-3_Nakano.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

趣旨説明

北海道大学　大学力強化推進本部　研究推進ハブ　URA ステーション　主任 URA　**中野　悦子**

第 6 回となる人文・社会科学系研究推進フォーラムは、人社系研究分野の役割に注目し、いわゆる異分野融合研究プロジェクトの在り方や今後の展望について皆様と考える場にしたいと考え、企画いたしました。

異分野融合や学際研究、文理融合など、今までにも何度も議論されている大きなテーマですが、近年、特に異分野融合研究・プロジェクトに、人社系研究分野の参画が求められるようになっております。その象徴として、2020 年 4 月の科学技術基本法の改正がございます。本改正により、科学技術から除かれると定義されていた人文学・社会科学も本法律の対象領域に含まれることになったのみならず、人社系のみに係る科学技術やイノベーション創出も想定されることとなりました。

海外では既に、EU の「責任ある研究・イノベーション」(Responsible Research and Innovation（RRI)）という考え方や、OECD の「社会課題解決のための超学際研究（TDR)」のように、人社系の役割が積極的に謳われるようになっておりますが、この背景には、1960～70 年代に始まった科学技術への懐疑と「ELSI 研究プロジェクト」の登場、そして責任ある発展の模索、さらには複雑化する地球規模の課題を一刻も早く解決へと導いてほしいという社会の要請の現れであると考えております。

とはいえ、異分野融合といっても、その形は様々であり、それぞれに目指すものや参画するステークホルダーも大変異なっております。その中で、日本ではまだまだ人社系研究分野は極めて限定的な役割しか担っていないようにも思えます。

そこで、今回のフォーラムは、異分野融合研究において人社系はどのように参画できるのか、参画にどのような形があるのか、また、単に参画するだけではなく、人社系が主導する場合はどのような絵が描けるのかについて、二つの基調講演、五つの事例紹介を通じて理解を深め、その共通認識のもとに、議論

をさらに活性化させることを目指しております。

まず、基調講演では、近藤康久先生、城山英明先生から未来像を見据えたお話を頂きます。事例紹介の部では、既に様々な形で実施され成果を上げている取り組みについて、南了太先生、高橋そよ先生、田口茂先生、堂目卓生先生、山内太郎先生からお話しいただきます。

また、日を改めますが、本日の講演を踏まえてワークショップを行い、さらに理解を深めるとともに、私たちの日々の業務や研究の現場で、実際に取り組んでいくための示唆を導き出したいと考えます。ワークショップで講評をお願いする鈴木一人先生には、本日、コメンテーターとしてご参加いただいております。

最後に、「人文・社会科学系研究推進フォーラム」は、人社系の研究に関わる研究者、URA、事務系職員らが、より良い研究推進の在り方をともに議論し、ともに行動することを目指して、2014 年に発足いたしました。現在、大阪大学、京都大学、筑波大学、早稲田大学、琉球大学の 5 大学に加え、2019 年から北海道大学、横浜国立大学、中央大学が幹事校として参画、これら 8 校の URA が協力し、運営にあたっております。第 6 回目となる今回は、北海道大学大学力強化推進本部研究推進ハブ URA ステーション主催にて、開催いたします。